

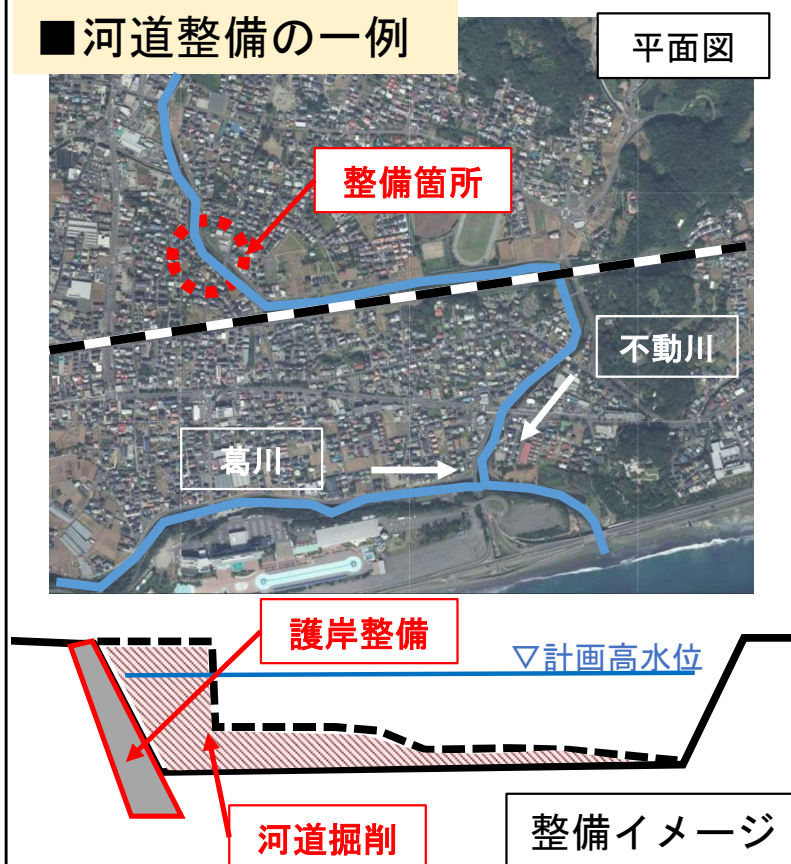
流域治水プロジェクトの取組事例集 (葛川水系)

(葛川流域治水協議会)

- 葛川水系においては、「葛川水系河川整備計画（平成31年3月）」に基づき、時間雨量約50mmの降雨による洪水を安全に流下させるため、河道整備（河道掘削、護岸整備、橋梁架替等）を進めている。

実施状況

■河道整備の一例



整備前



整備後

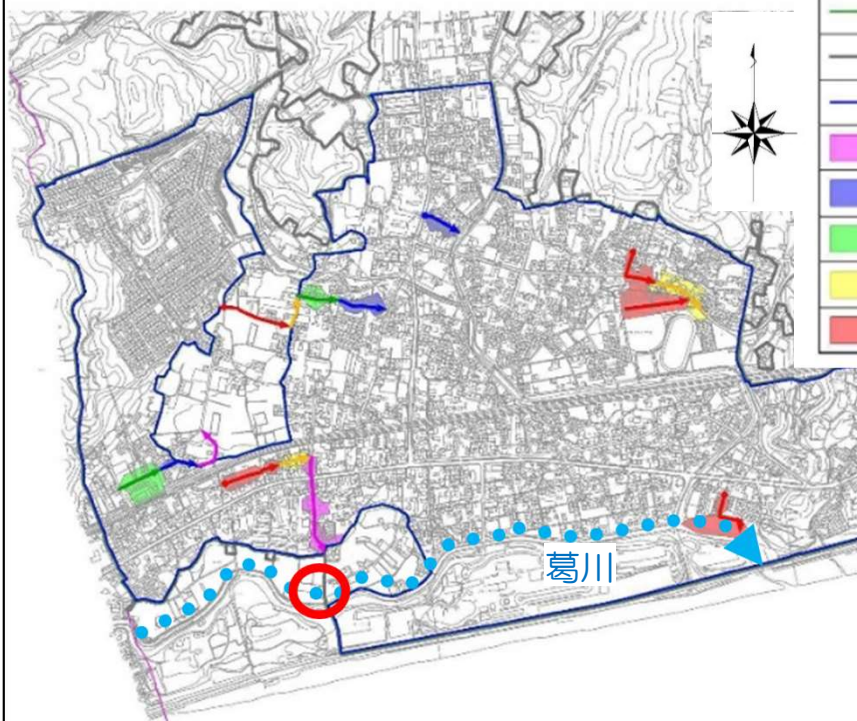
対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
河川改修事業による河道整備	神奈川県			

葛川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
神奈川県、平塚市

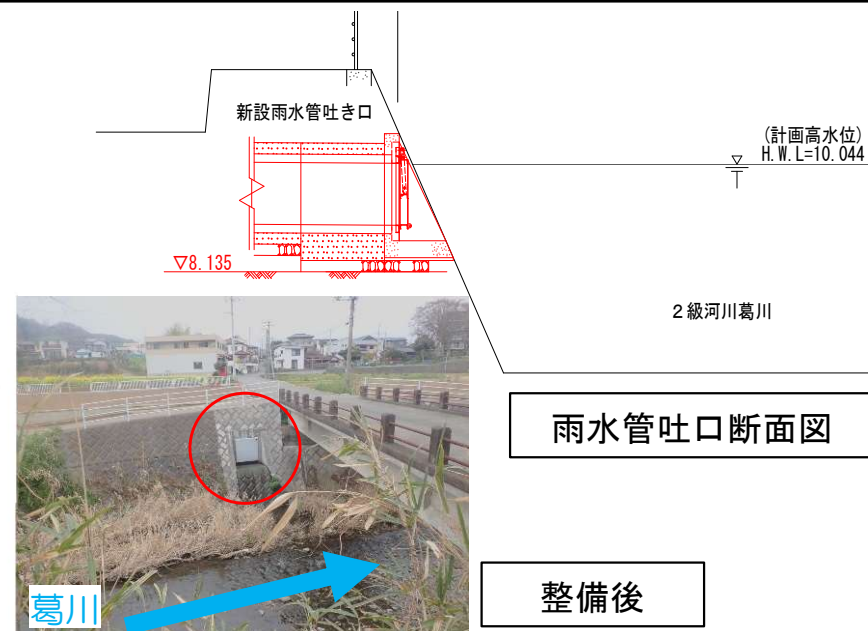
- 葛川水系においては、「相模川流域関連大磯公共下水道事業計画（令和3年3月）」に基づき、時間雨量約55mmの規模の洪水を安全に流下させるため、雨水管の整備を進めている。

実施状況

事業進捗図



凡 例	
—	行政区域
—	市街化区域
—	全体計画区域
—	事業認可区域
■	令和3年度整備区域
■	令和4年度整備区域
■	令和5年度整備区域
■	令和6年度整備区域
■	令和7年度整備区域



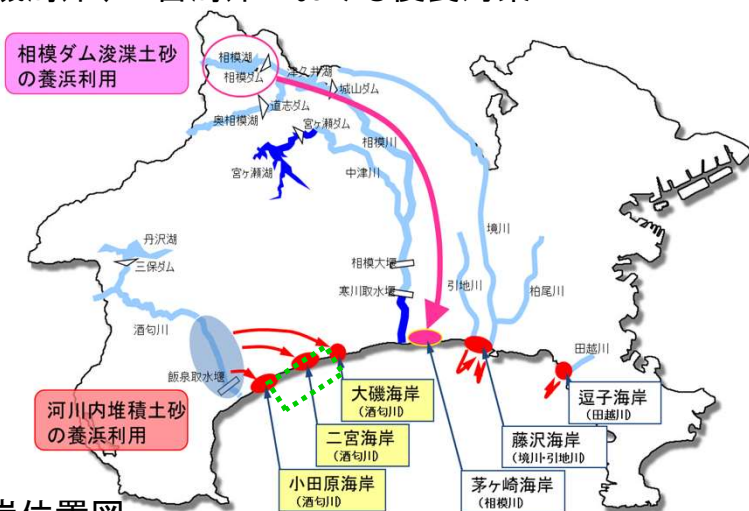
対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
雨水排水施設の整備	大磯町	➡		

葛川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
大磯町、平塚市、秦野市、二宮町

- 相模湾では、河川からの土砂供給量の減少などにより、海岸侵食が進んだことから、将来に渡る「美しいなぎさの継承」を目指し、平成23年3月に策定した相模湾沿岸海岸侵食対策計画（令和3年3月改定）に基づき、砂浜の回復・保全を図るため、養浜を主体とした海岸侵食対策に取り組んでいる。
- 葛川流域においては、大磯海岸及び二宮海岸を対象に、継続的に養浜を実施している。

実施状況

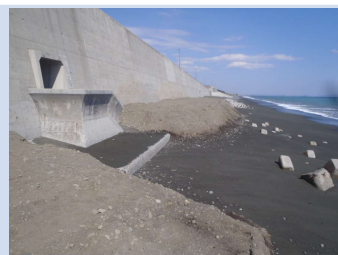
■ 大磯海岸、二宮海岸における侵食対策



■ 海岸位置図



■ 侵食対策状況(養浜)

	施工前	施工後
大磯海岸		
二宮海岸		

対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
海岸保全施設の整備 や侵食対策の推進	神奈川県			

葛川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
神奈川県

- 上下水道料金の負担軽減を図ることを目的に雨水貯留槽（雨水タンク）を設置する者に、購入設置に係る費用の一部を補助している。また、集中豪雨などの際には雨水を一時的に貯留することで、河川への流出抑制の一助としての効果を期待している。
- 本制度の内容や目的を広く住民へ周知することで雨水貯留槽の購入を促進して流域の雨水貯留機能を向上させていく。

実施状況

雨水貯留槽設置例（容量：140L）

本制度開始から現在までの実績
（令和7年度～令和8年度速報値）

累計件数 283件
累計容量 約40,000L

年度		R7年度 ※1	R8年度 ※2
設置件数		280件	3件
容量累計		39,530 L	430 L
施工者	町内業者	220件	3件
	個人	55件	0件
	町外業者	5件	0件

※1 R7年度は物価高騰対応重点支援地方創生臨時
交付金を財源に活用

※2 R8年度は5月速報値



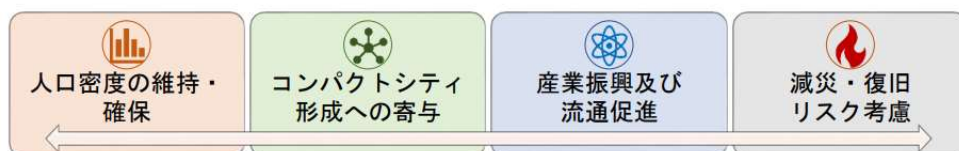
酒匂川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
二宮町、平塚市、秦野市

- 秦野市では、人口減少・超高齢社会を踏まえた持続可能なまちづくりに取り組むため、生活に必要な機能を都市の拠点周辺に誘導するとともに、交通ネットワークによりその拠点間の連携を図るコンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造を目指し、令和2年4月に立地適正化計画を策定した。
- 近年、気候変動の影響等により自然災害が頻発・激甚化している中、災害ハザードエリアにおける開発抑制、移転の促進など、防災対策・安全確保策を定める「防災指針」の作成等に向けて取り組む。

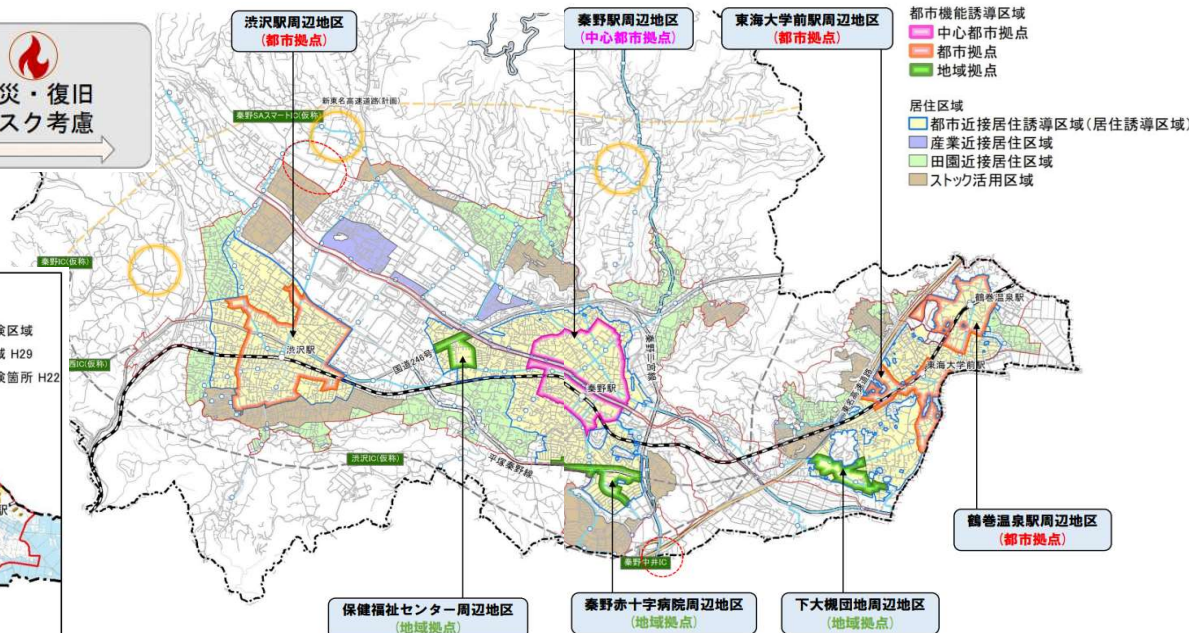
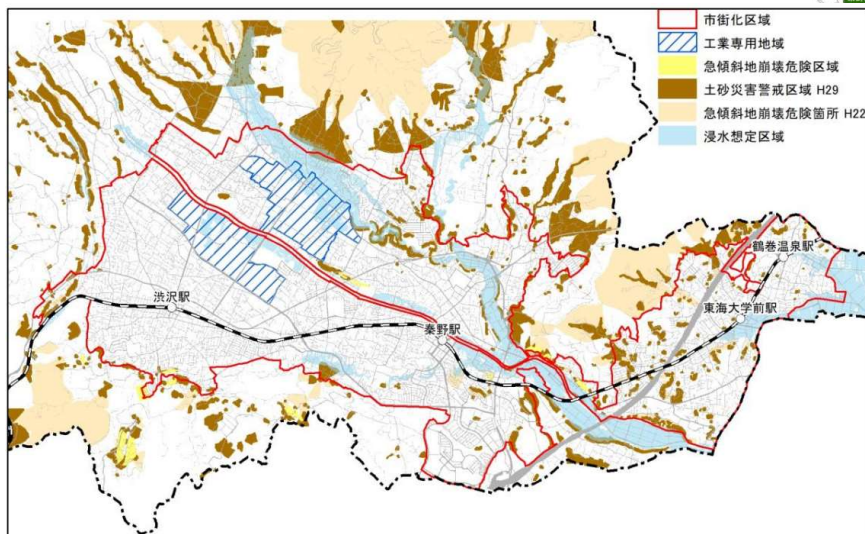
取 組 内 容

■市民生活を守るために将来目指すべき住環境形成の方向性

■災害ハザードエリア等を考慮した居住誘導区域の設定



■市内の災害ハザードエリア



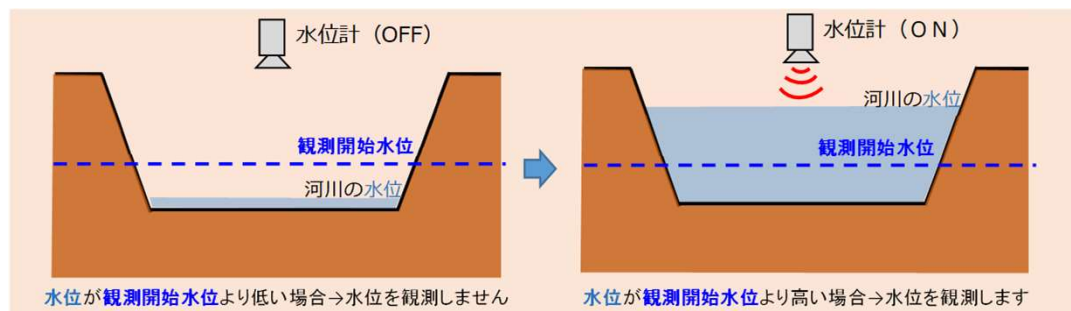
対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
立地適正化計画の推進	秦野市			

- 住民の適切な避難判断のための水位情報提供を目的に、これまで水位計の無かった箇所でも水位把握できるよう、洪水時の水位観測に特化した低コストな水位計を設置することで、出水時の水位観測により避難体制の強化を図る。

取組内容

■危機管理型水位計とは

- ・ 洪水が発生した際に、河川周辺の住民の皆様が避難する際に、役立てていただくために設置する水位計。
- ・ 河川が未整備のため注意を要する箇所や、学校や病院など、重要な施設が周辺にある箇所に設置。



■県ホームページから水位状況を確認することが可能



■危機管理型水位計の設置事例



対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
危機管理型水位計・簡易河川監視カメラの設置	神奈川県			

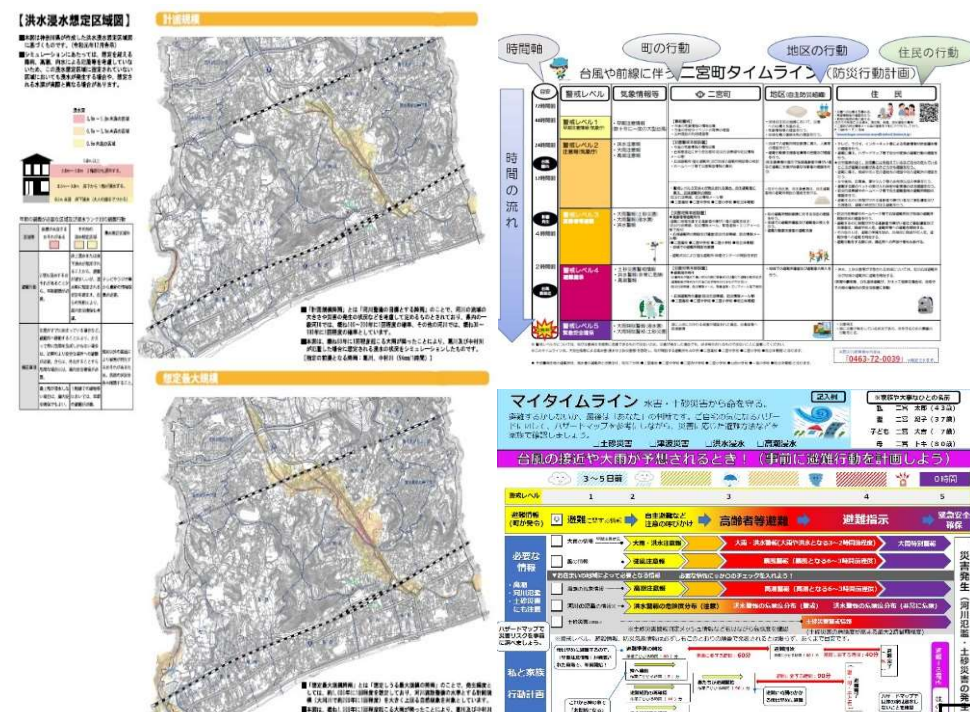
葛川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
神奈川県

避難体制等の強化 【マイ・タイムラインの取組推進】

被害の軽減、
早期復旧・復興
のための対策

- マイ・タイムラインとは、洪水などの災害が発生した際に、「いつ」「何をするのか」を整理した個人の防災計画であり、住民一人ひとりがとる防災行動を時系列に整理し、あらかじめ取りまとめることで、避難判断のサポートツールとして役立つものである。
- 二宮町では、町内の各地区で実施される自主防災訓練や、町主催で実施する地区の防災指導員を対象とした研修会等により、マイタイムラインや洪水浸水ハザードマップなどの説明を実施している。

取組内容



防災指導員研修会の状況

マイタイムラインや
洪水浸水ハザードマップの説明資料

対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
マイタイムライン の取組推進	二宮町			

葛川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
二宮町、平塚市、秦野市、大磯町、中井町

- 令和4年9月に発生した、台風第15号（2022年9月23日～24日）に対し、町はタイムラインに沿って警戒態勢等を取り、気象情報により今後の状況判断を考察するなどの対応を行った。また、後日、気象庁担当者と町の相互連携について振り返りを行い、認識を統一した。

取組内容

- 台風の接近に伴い、職員による警戒会議の実施、災害対応に向けた職員の配置など、上陸前日から町のタイムラインに沿って、災害発生への対応を行った。
- 後日、気象庁との振り返りにより、災害警戒情報の発表に伴う地図表示条件等について再確認し、災害対応能力の向上を図った。

令和4年 台風15号に関する気象情報

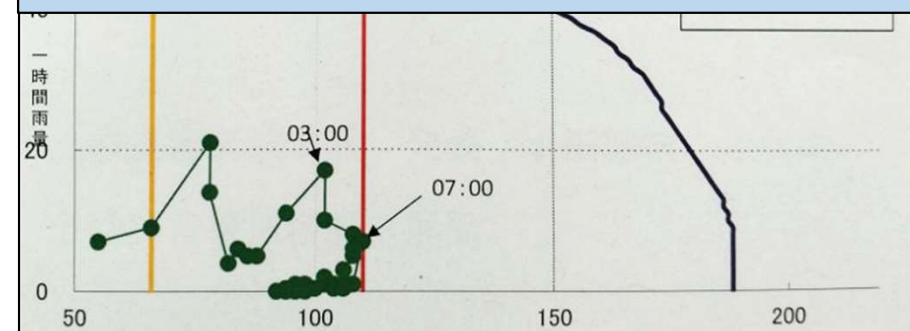
令和4年 台風第15号に関する神奈川県気象情報 第5号
令和4年9月23日16時31分 横浜地方気象台発表

神奈川県では、24日は土砂災害に警戒し、25日にかけては、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒してください。

	23日			24日										25日		
	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時
台風接近	20	25	30	30	30	30	30	30	25	20	20	20	20	20	20	20
大雨(土砂)	20	25	30	40	40	40	40	40	30	25	20	20	20	20	20	20
洪水																
雷																
強風(メートル)	4	6	8	8	10	10	10	10	12	12	12	12	12	12	12	12
波浪(メートル)	0.5	0.5	0.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
浪高(メートル)	0.5	1	1.5	1.5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
浪速(メートル)	1	1.5	2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5

※ 24日18時までに予想される24時間雨量は、いずれも多い所で、東部120ミリ、西部150ミリ
25日18時までに予想される24時間雨量は、いずれも多い所で、東部およそ50ミリ、西部およそ50ミリ

スネークライン



対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
タイムラインの検証・見直し	中井町			

葛川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
中井町、平塚市、秦野市、大磯町、二宮町